



第134号

発行所 上高井教育会  
 発行人 上高井教育会会長 市長 市  
 竹前稀 編集委員 男  
 会報編集委員 一  
 勝山 新聞社  
 印刷所 須坂新聞社

# 委員会報告 中間報告

「子どもがねばり強く自己形成していくための指導のあり方」という全体テーマのもとに、四月以来、各研究委員会ではさまざまな教育実践がなされてきました。各委員会では現在どのような課題をもち、成果が得られてきているのか、後半に向けて、中間報告をしていただきます。

## 子どもの

## 存在の意味を自問して

富澤慶吉

七月四日の研究日には、音楽と社会について三枝先生よりご指導いただいた。その内容について、総委員会の基調講演との関連で考えてみたい。須坂小における音楽では、次の四点について指摘された。

一つは、音楽美の追求という点である。美しい表現は外にあるものでなく自分の心の内なる音を聴くということ、その子の音を聴くこと。第二は心情面のつまずきから声が出ない子どもへの指導は、その子が抵抗を感じないところから生かしていくことがよい。自己探究とか自己表現に關わって、一番基底になることは、その子の所属感、安定感が大切で、できるできないと

東中の社会科では、第一歴史的社会的変化の中で自分とのかかわりを学んでいくこと

## 《提言》教育的であること

小林考助

子どもに接している時、大人はいつも教育的でありたいと思うが、教育的であることはなかなか大変である。

日曜日到庭の草とりを始めたら、四歳になる史ちゃんが「僕も手伝う」と言っただけで、持ってきて来た。「それはおりこうだね」と言っただけで、「史ちゃんおりこう」と言いながら所かまわず、ほ

## ＝上高井教育会だより＝

- 11・14 秋の講演会 演題「地球環境変化の科学」
- 講師 東大教授松野太郎先生
- ・14 信教全県研究大会東信地区 屋代中学校
- ・18 信教全県研究大会北信地区 中野小学校
- ・21 信教全県研究大会北信地区 中野小学校
- ・25 第10回女教師研究大会 於須坂小学校視聴覚室
- ・29 研究委員会(2)
- ・12 第11回研究発表会
- ・4 第7回常任委員会
- ・19 第8回代議員会
- ・24 信教各種研究調査編集委員中間報告会(3)
- ・24 上高井教育会報第135号発行 第11回研究委員会
- ・第10回女教師研究大会特集

を基本にすえて、事実認識を大切にすること。子どもの座席表に書かれているユニークな考え方に学習の芽があり、その分析から授業を構成することがよい。第二は子どもの考え方の根拠をはっきりさせてやり、このことにこだわりが持てるようにしてやること。また、相互の考えをつなげたり、自他の関係がわかるということが大事で、その吟味が学習であること。第三は、嘲笑されがちな生徒については音楽科で指摘された子どもの存在の尊厳性をもう一度学級の中で問い直してみなければならぬこと等の指導をいただいた。

以上二つの授業研究における三枝先生のご指導で一本貫かれていくこととして、一人の子どもの存在の意味と重みを自問しながら、授業を構想しているのかということではないかと思う。できる・できないかと思う。

.....

ない、役に立つ・立たないという問題ではなく、かけがえない生命として、その尊厳性を自ら問うているかということである。一人ひとりの子どもの内面に美が生まれ、それぞれの中に多様な重いや考えが生じてくることへの感動的な子ども観とでもいえるようか。

.....

手な接し方だなど大いに後悔した。

教育的であるためには、子どもを知らなければならぬ。子どもという個性的なものと、この子の今、この事態における状態を。時すでに遅しである。後日、トマス・ゴードン著 P.E.T.を手にし、大いに参考になった。

.....

子どもの行動が大人の生活の邪魔になる時、ほとんどの大人は効果のないミニネーションをしている。止めなさい！そんなことをしてはいけません！どうしていい子にな

.....

そのような子ども一人ひとりの存在の意味をとらえて、授業を構想し、展開したとき子どもがねばり強く自己形成する姿が随所にみえてくるのではないかと思われる。十一月の研究に向かって、いまま月三枝先生の基調講演を読み直して、授業に生かしていきたいものだ。

(須坂小)

子どもに接している時、大人はいつも教育的でありたいと思うが、教育的であることはなかなか大変である。

日曜日到庭の草とりを始めたら、四歳になる史ちゃんが「僕も手伝う」と言っただけで、持ってきて来た。「それはおりこうだね」と言っただけで、「史ちゃんおりこう」と言いながら所かまわず、ほとんどの大人は効果のないミニネーションをしている。止めなさい！そんなことをしてはいけません！どうしていい子にな

.....

そのような子ども一人ひとりの存在の意味をとらえて、授業を構想し、展開したとき子どもがねばり強く自己形成する姿が随所にみえてくるのではないかと思われる。十一月の研究に向かって、いまま月三枝先生の基調講演を読み直して、授業に生かしていきたいものだ。

(須坂小)

(栗ガ丘小)

# 合科総合



## 市川和恵

研究テーマ  
「ひとりひとりの子どもたちが喜びを持って学習を創り出していく指導はどうあったらよいだろうか」

成を図ることを基本的なねらいとして改訂を試みた。その中でも生活科は、個性重視の教育改革の目玉とさえいわれられている。

生活科を志向して——  
物事を分析的にとらえたり、関係づけたりすることが困難な状態にある低学年の子どもたちにとっては、活動の対象となるものは、具体的な事象現象が多い。それらは、子どもをとりまく自然環境や社会環境として総合的な状態で存在している。従って、そのような対象に働きかける子どもたちの活動は、おのずと総合的な形態を示してくるよう思われる。文部省は、平成元年三月十五日に新学習指導要領を告示し、21世紀の国際社会に生きる心豊かな人間の育

# 力をめざして

## 中間報告

初めての学担、高学年から初めて一年生の担任、他郡から来たばかり、と様々な顔ぶれですが、皆、テーマを前向きに受けて、自分なりの実践をしようという意欲を燃やし「うさぎ」「モルモット」「かたつむり」「いろいろな虫たち」「アサガオ」「大豆」「野菜づくり」など飼育栽培を中心に取り組まれ、いずれも、子どもに寄りそって、観察させたり、発見の喜びを味わわせたり、生命の不思議さ、死との厳かな対面など心情に迫る

本年度は、今までの研究成果をふまえて、図工美術委員会では「子どもが喜んで追求する造形学習のあり方」をテーマに、子どもの心情に寄りそった題材により、具体的な指導の手だてを通して、一時間一時間の授業の中で子どもたちがどのように自己評価をしながら自己表現にかかわっていくのかを子どもたちの具体的な姿でとらえながら研究を深めていくことにした。

七月四日に、常盤中学校二年生「自画像」の題材で、青木勇治先生に授業をしていただいた。常盤中では、生徒の美態（安易な受け身の姿勢、感動の伴わない浅い表現に陥る傾向がある）にたち、委員会が自己評価を重ねながら表現主題を追求し、成就感を得させるための指導はどうであったらよいかというテーマを設定して研究に取り組んだ。「世界中に一人しかない

自分という人間を、鏡を通して観察し、自分の心まで迫る個性の滲みでた自画像を描こう」を生徒の共通のねらいにして授業をしていただいた。本時は、自画像の参考作品を鑑賞することを通して陰影の諧調や量感、質感などを表わす描線に気づいて自作に反映し、明暗のバランスがとれ、表現主題に迫る画面の追求を主眼にすえた。この主眼のもとに一人ひとりの生徒が自分の学習課題をはっきりさせ表現主題に迫るために真剣に創作にとりくんだ授業であった。研究会の講師に、森山明治先生をおねがいし、適切なご

指導をいただきながら研究を深めることができた。特に研究の視点である自己評価に関しては、評価の観点を明確にして、子どもたちひとりひとりが、自分の中に規準をはっきり持って創作することの大切さが指摘され、今後更に自己評価を大事に考えていく必要を感じさせられた。

午後は、授業研究だけでなく、会員各自の実践を持ち寄り、作品研究も行い、問題点や指導法についてご指導をいただいた。

次回は、日野小学校の授業で研究を深めたい。

(仁礼小)

## 図工美術



本年度の委員数26名。新卒、

七月四日の第一回研究委員

七月四日に、常盤中学校二年

自分という人間を、鏡を通して

(丸山康雄)

## 校章・校歌めぐり⑤

### 高山中学校



校章は、上に山、両側に松、下に白樺をあしらひ、共に高山の地域を表している。このすばらしい自然環境の真中に建てられた高山中学校は、全村民に大事にかかえられている。そして、ここで学ぶ高井・山田両地域の生徒は、仲良く協力し合い、大きく伸びてほしい。

校歌が制定されたのは、統合高山中学校の開校後二年たった三十五年のこと。作詞者は、アララギ出身の五味保義先生。高山村内のアララギ門人一同の懇請により作詞を引き受けられた。

ではほしいと願ひながら、生徒達の洋々たる前途を祝福している。三番では、希望を高く掲げ、胸いっぱいにくらませ、三年間学んで下さい、高山中は諸君と離れることはできないでしよう。そのことを「なつかしきかなわが母校」としめくくっている。

作曲者は松本民之助先生。先生は東京芸術大学の名譽教授として、七十五歳の今も作曲活動に専念されておられる。作詞者作曲者ともに当代一流の先生による我校歌である。

校歌の書は、長野県を代表する書家、小出聖水先生によるものである。その校歌額が体育館に掲げられてある。昭和五十三年の創立二十周年記念の折りに建てられた校歌碑が、現在も正面玄関の傍らで力強く見守ってくれている。

(丸山康雄)

高山中学校 校歌

校歌が制定されたのは、統合高山中学校の開校後二年たった三十五年のこと。作詞者は、アララギ出身の五味保義先生。高山村内のアララギ門人一同の懇請により作詞を引き受けられた。

ではほしいと願ひながら、生徒達の洋々たる前途を祝福している。三番では、希望を高く掲げ、胸いっぱいにくらませ、三年間学んで下さい、高山中は諸君と離れることはできないでしよう。そのことを「なつかしきかなわが母校」としめくくっている。

(丸山康雄)

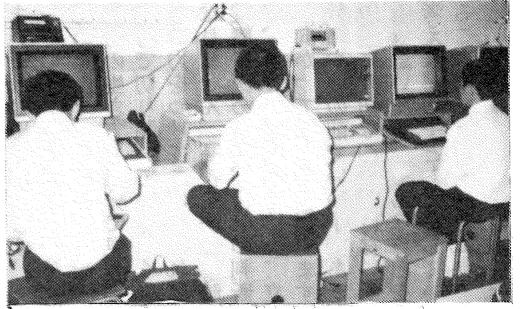
# 保健



藤本麻子

# 子どもの生きる

## 研究委員会



「児童生徒ひとりひとりが自らの健康を増進させるための具体的な指導はどうあったらよいか」のテーマのもとで本年も研究することになった。第一回の会では①事例研究、保健室を訪れる子どもについて②保健日より、家庭通知、参考資料等各校独特のものを持ち寄った。「歯みがき」一つをとっても、各校それぞれのやり方でひとりひとりの習慣形成のために資料提供や、ブラッシング実演など努力している様子がわかった。いままでもなく基本的習慣は小学校へ入る前に家庭できっちり躾ておくべきなのに、この何年来同じようなことをくり返していたことに気づく。最近問題にされている煙草の害、

怪我をしやす子どもへのバイオリズム、中学生対象のムシ歯にかかる費用面からの啓蒙、登校拒否の児童生徒の実態等の研究課題は山積している。性教育面では、過去三年間にわたり郡全体で小グループにわかれ一通りの調査をし、実態をまとめたりしたが、今年度も何らかの形で目を通していく必要があるかと思われる。

午後の二時間は、学校薬剤師会の山下先生を招き学校における照度測定等の研究発表が行われた。蛍光灯の取りつけの位置、アフターケアの必要性、黒板への的確な照明位置、家庭における照明環境、特に勉強部屋の照明など細かい点など示唆されいろいろな

点で非常に勉強になった。遠方監視訓練も話題になり十年程前からこの郡でも行われたりしたが最近では忘れられた

# 理科



## 一、研究テーマ

問題解決を重視した理科学習はどのようにしたらよいか。

自己形成力を高める問題解決学習のあり方

二、全体テーマとのかかわり  
本郡の研究テーマの子どもがねばり強く自己形成していく姿を、自分の願いを実現するための道をねばり強く摸索し、自分で自分の道を切り開いていく姿ととらえるならばそれは本郡の理科研究委員会で進めてきている問題解決を重視した理科学習と同じくするものと考ええる。本年度は自己形成力(自己教育力)の要素を分析し、その要素を問題解決学習の中で究明し、自己形成力を高める。

三、研究の方向と内容  
①自己形成力の要素と問題解決学習のあり方  
②学習活動の自己評価と、その生かし方  
③子どもととらえ方  
④素材のとらえと教材化  
四、第一回研究委員会で明らかにしたこと

- ①自己形成力(自己教育力)の要素のとらえ
- ②自己を成長、発展させる

ような形である。第二回目の研究会には、また新しい観点からの資料を期待している。(井上小)

## 小池勝雄

### 志向性(意欲)

- 意欲の構成要素
- 意欲を支える要素
- 意欲の表れ方
- 自己を教育し続ける力(意志)

- 自己の認識と評価の力
- 自己コントロールの力
- 学習の技能と基礎
- 学び方の知識と技能
- 基礎的な知識・理解・技能
- 自己教育の心理的基盤
- 自信・プライド・安定性
- 第一回実証授業から示唆された内容

- (仁礼小・六学年「地層」)
- ①知的好奇心を大切に、問題を見出す力を育てるために事象提示を工夫する。
- ②K児の気づきを先生が取り上げたことから友だちとのかかわりが出て積極的になった。適切な教師の出が有能感、成功感を高める。
- ③身近な仁礼の地層の観察から地層の働きを実験で確かめてみようという追究的な学習は学び方を学ぶことにつながる。

- 五、第二回委員会では、自己教育力と評価を究明する。(小山小)

# 感想を持つ手だてを 与えながら

学校図書和田 邑 吉

学校図書委員会が中心講師三枝先生から御示唆いただいたことは、「読むことと文を作ることの関わりを、多面的に関係的に見ていくこと」であった。

平成元年度図書委員会は、昨年度の研究成果の上にたって、意欲的に読書する子供を育てるには、どう指導していけばよいか」というテーマを樹立し、年間二回の全体会、六回的小委を予定している。

第一回目は、七月四日、栗が丘小四年三組で、授業者下川光子教諭の弾くオルガンと、明るい歌声で始まった。

特設單元「わたくしの一冊」で、自分の読んだ本を級友にわかるように紹介したり、友の紹介を聴いたりすることを通して、いっそう図書に興味や関心を持つようになることを意図し、「先生、ありがとう」とや「バスケットボールの教室」「剣道教室」「ちいちゃんのかげおくり」「一つの花」なども数人ずつに紹介させるものであった。それらは、クイズ式に流したり、紙芝居であったり、図書のさし絵を直接見せたり、OHPを使用したり、自分に役立ったこと体験などを挿入したりした、能動的でしかも効果的な紹介活動であった。

栗が丘小の児童達の学習意欲は、十分に醸成されていることが、紹介や聞く、質ねる活動のそれぞれにうかがうことができた。

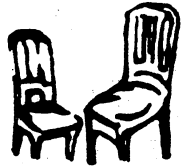
午後は「児童、生徒の実態に応じた読書指導等は、どのようにしたらよいか」を話し合った。郡下の各校の読書週間の持ち方も紹介し合ったが学級新聞を発行したり、一斉指導の時間を設けたり、新刊本を絵入り画用紙で紹介したり、読書感想文集の製作も予定したりする学校もあった。

また国語教育教材と並列して意図的に、図書館の図書も採り込む国語活動も展開するなど図書を深く読み味わう活動から、読書材を選んで利用していく方向へ姿勢が変容しつつあることがうかがわれた。

次回は、東中で名取教諭の授業を参観する予定である。講師は、「一回とも峠の旗」編集長高橋忠治先生である。(常盤中)



# 火ばら 談義



## 充電期間

碓井明美

「先生、先生」と親しげに呼んでくれる子どもたち。

「それでも先生？」とからかってくる子どもたち。そんな生活に入って四年目の私が、今感じていることを、率直に書いてみたいと思います。

結論から書いてしまうと「いい子」に対する考え方が変化してきたということですが、新卒の頃は、とにかく私の言うことを素直に聞き、反抗しない子がいい子で、何も問

題を感じませんでした。簡単に言えば、私にとって都合がよく、扱いやすい子がいい子だったわけです。

ところが、最近そんな子を見てみると、こんなに私を信用しているのか、この子は自分の頭や心を使っているのだろうかといった不安を覚えることがあるのです。いい子だけで済ませてはいけない重要な何かがあるような気がして

仕方がないので。

今の子どもたちに期待することは「親や教師の言うことに従順になれ」ではないはずで、

教師も人間ですから、言うことを聞いてくれればうれいものです。しかし、その純な満足感の繰り返し、先生の言うことを聞いていられない子という子どもを作っているような気がしてなりません。

授業が終わった後に「先生、お便所行ってもいいですか」と聞きに来る素直な子の子をそのまま放っておいてはいけません。教師が「この子はいい子だ」と考えているだけでは、前にも書いた重要な何かを見落としてしまいそうな感じがします。

その子なりの良さを十分に認めた上で、その子が将来、自分の生き方を自分で見つけ、自分で切り開いていくたくましい力をつけてあげなければなりません。高校を決める時、就職を決める時、自分の判断で、自分の価値感を持って立ち向かって欲しいと願います。教師や親の前でいい子である以上に大切なことではないかとも思います。そんなことを考えながら子どもと接しているこの頃です。(井上小)

## 郷土の文化財 ⑨

榎原神社の大幟

小布施町・六川

## 福星(再)壽域

明治九年 五月  
丙子四月

## 神聖化群生

高井健壽郎

高井鴻山が七十一歳の時に揮毫したと言われる作品である。この幟の一つの大きさは、縦が九・四三メートル、幅が〇・七二メートルである。

この幟には「福星開壽域」「神聖化群生」と記されている。福星壽域を開き、神聖群生を化す。

福の神がよく治まった世を開き、天子が民衆を教化するの意味である。(神林)

## 編集後記

四月以来の研究、実践がいっそう深められる時期になりました。各研究会からの中間報告には、課題と実践の隔たり、そこから浮かび上ってきた問題点が、実践を通して深められている様子が、よくうかがえます。理論を実践を通して確かめていく、地道な取り組みの大切さが、あらためて認識させられます。

各研究会の先生方、また寄稿いただきました先生方には、大変お忙しい中、執筆をいただきました。編集の都合上、十分な頁がとれず、ご迷惑をおかけしましたことを、おわび致します。(神林・山岸)

## 「いい子」について 少し考える

根橋健治

「いい子」について少し考える。根橋健治。題を感じませんでした。簡単に言えば、私にとって都合がよく、扱いやすい子がいい子だったわけです。

ところが、最近そんな子を見てみると、こんなに私を信用しているのか、この子は自分の頭や心を使っているのだろうかといった不安を覚えることがあるのです。いい子だけで済ませてはいけない重要な何かがあるような気がして

## 山形路

探訪

渡辺靖爾

第二子出産に伴って、育児休職をいただいた。この休職は、三歳に向かいつつある娘と、ゼロ歳児の息子と遊びほうけた有難い休職だった。そして、この遊びを通して、多くのことを学ばせてもらった。引つ込み思案で甘えん坊の娘を少しでも集団に慣れさせようと、近くの幼稚園に遊びに行ったり、三歳児を対象とした音楽教室に通ったりしてみた。

なせ、人間よりサルに近いような子ども達を相手にするのだから、先生方も大変である。音楽教室では、歌やリズム遊びの外に、折り紙や簡単な工夫なども取り入れて、子ども達の注意が持続されるように工夫されていた。毎回

「閑けさや 岩にしみ入る蟬の声」 言うまでもなく、俳聖芭蕉が元禄二年五月二十七日(新七月十三日)奥の細道行脚の折、立岩寺を訪れて詠んだ不朽の名句である。今年には彼が奥の細道に旅立って丁度三百年祭が行われたそうである。今秋たまたま山形路を旅する機会に恵まれ、立岩寺(山寺)を訪れた。山門から奥の院まで、老杉の薄暗い木立の中、

違ったことを教えてくれるので、娘より私のほうがすっかり夢中になって、「あっこれは一年生を受け持った時に使える」とか、「これは、音楽の時間にやってみよう」などと、楽しんでメモしておいた。幼稚園の方も同様である。また、テレビの幼児番組も捨てたものではない。最初はしづしづ見ていたが、楽しい歌やリズム、体操などすっかりとりこになってしまった。

これらの中には、体育や音楽の授業や運動会のダンス等に役立つものが結構ある。このように、アイディアをストックできたこの休職に大変感謝している。(旭ヶ丘小)

岩に巖を重ねた急な石段を登ること千余段、改めてこの句のすばらしさを実感することができた。

将棋の駒で有名な天童に泊して、翌日は紅葉し始めた雄大な蔵王高原を回り、出羽三山の一つ湯殿山に参拝した。ここは「語られぬ湯殿にぬらす快かな」と芭蕉が詠んだように口外禁止の修験道の霊地である。山形から湯殿山を経て庄内に通ずる溪谷沿いの六十六里越街道は、現在すばら



山形路の風景。老杉の薄暗い木立の中、